

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570700340
法人名	特定非営利活動法人 ゆうらいふ
事業所名	グループホーム すいれん
訪問調査日	平成 20 年 9 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 21 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570700340
法人名	特定非営利活動法人 ゆうらいふ
事業所名	グループホーム すいれん
所在地	滋賀県守山市川田町988-1 (電話)077-581-4607

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地	平和堂和邇店	2F
訪問調査日	平成 20年 9月 29日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤	4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 4.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,380 円

(4)利用者の概要(9月 29日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック・小西医院・津曲歯科医院・守山市民病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の「NPO法人ゆうらいふ」は、閑静な住宅街にグループホームすいれんと隣接してデイサービスを設置している。木造住宅を改造して1階4人と2階2人の6人が家庭的な生活をしている。居宅介護支援事務所も隣接して開所して、介護の窓口が大きく広がり、地域住民との交流も盛んに行われている。施設の近くには田畑が広がり、また、細い水路には鯉も放流されていて、餌をやると寄ってくるなど、自然の風景にも恵まれて、絶好の住居環境となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回指摘された理念の掲示は、筆書きで大きく共同部屋の壁に貼ってあり、職員、家族のほか利用者の目にも付きやすく改善している。また、広報による地域住民へのPR、保育園児との交流、春夏のお祭りへの参加、お茶会の開催などで地域住民との交流を深めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全員で意見を出し合っ、一年間の成果の確認および改善点を改めて反省するなど、日頃の繁忙に追われていて見直す機会が少なかった点の反省として積極的に活用している。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>市高齢福祉課、町代表者、民生委員、家族の会代表者、家族が参加して2ヶ月に1回確実に開催している。写真付きの広報による近況報告、高校生の福祉施設体験学習の受け入れ、催し物などの報告、介護保険の改正等の連絡などが話し合われ、そこで得られた情報や検討事項は、その後職員間で話し合いを行いサービスの向上に役立てている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>市高齢福祉課、町代表者、民生委員、家族の会代表者、家族が参加して2ヶ月に1回確実に開催している。写真付きの広報による近況報告、高校生の福祉施設体験学習の受け入れ、催し物などの報告、介護保険の改正等の連絡などが話し合われ、そこで得られた情報や検討事項は、その後職員間で話し合いを行いサービスの向上に役立てている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域の人から季節の野菜や果物の差し入れがあり、駐車場も好意的に利用させてもらっている。また地域保育所から園児が来訪したり、蛍の見物などで立ち寄られたり、自治会のお祭りなどに参加したりしている。散歩の途中などで出会った人々からの声かけもあり地域にとけ込んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりのその人らしさを大切に、ゆかいに気ままにゆったりと、安心して老いる場を地域と共に考えるようにしていこうという理念を掲げて、その達成に全職員が心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共同部屋の壁に墨書で大きく理念を書いて貼り付けてあり、管理者と職員は、カンファレンスや日々の引き継ぎの中で理念に基づいた具体的な内容で利用者へ対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は毎日、犬を連れだりして近所を散歩しているが、見かけると声かけがあり、また夜回りや自治会の会合への参加、保育園児との交流、お茶会などで地域の人々との交わりを多く持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日頃忙しすぎて十分に意識することができなかった項目などへの反省の材料として、全員が参加し意見を述べ合って作成し、改善に生かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市高齢福祉課、町代表者、民生委員、家族の会代表者、家族が参加し、2ヶ月に1回確実に開催している。近況報告、介護保険の改正等の連絡などが話し合わせ、そこで得た検討事項は職員間での話し合いを行いサービスの向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から事業所へ定期的に介護相談に来所されたり、中学校や高校の福祉現場体験の実習先として利用してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方には、月1回以上来所されるようお願いしており、そのつど写真つきの資料で説明し、書面で生活支援状況の説明を行い同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見の内外の窓口を重要事項説明書に明記し、苦情箱も施設玄関に設置している。来所された時や家族会などで自由に意見を言ってもらえるように雰囲気作りをしたり、催し物の時を利用したりして意見交換をしている。		大部分の家族の方は満足されているが、一部でまだ理解が十分でない家族もあり、意思疎通の方法に更なる工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最低限にするため休憩場所の配慮やストレス解消策の工夫をしている。止むを得ず異動する場合も、時期や引継ぎ期間の面で十分配慮し、管理者がフォローして利用者の混乱を避けるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時から本人の意欲や知識等も含めたレポートの提出を求めるプリセプター方式を取り入れ、介護の実践、認知症の理解への教育・指導を行っている。個人別年間育成計画を立て、順番制で外部研修に参加したり、「ゆうらふ」内での研修(月1回)に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の外部研修への参加をできるだけ時間を都合しつつ参加させているが、人手不足から必ずしも十分ではない。	○	県内のグループホーム連絡協議会にはスタッフ不足から参加できていないので、次年度からは参加してサービスの質向上取り組みの参考にして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から、デイサービスやショートステイなどを利用してもらって職員や生活の雰囲気慣れてもらい、馴染むのに十分時間をかけてサービスを開始するよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を一緒に散歩したり、食事をしたり、畑で野菜を作ったりして過ごすことで、介護するだけではなく、職員が学ぶことも多く、一人ひとりと共に支えあう関係が出来上がってきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者各人の思いや意向を日々の暮らしの中から、また本人の言動の中から気づくようにしており、言葉や表情が変化しているのを観察し敏感に感じ取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に自宅へ伺い、どのような場所や部屋で起居しているか、病歴や認知症発症時の様子・経過などのほか、2代ほど前にさかのぼって家族構成なども記載してもらっている。また出来ること、出来ないこと、生活情報、心身情報なども調べ、それらを十分反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	すいれん日記とともに介護計画を閉じ込んであり、記録によって計画の見直しがすぐできるようにしてある。利用者の心身の状態の変化や生活状況の変化に対応して家族への報告や協力を得る努力はしているが、介護計画への反映が必ずしも適切ではないこともある。外部評価で見直しのきっかけが得られている。	○	定期的な見直し(3ヶ月に1回)を確実に、また変化があるごとに見直した対応内容は、その都度ずれることなく介護計画に反映し、家族の方にも報告して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かし利用者の身体の異常の早期発見や予防につなげ、健康管理面では安心できる環境にある。また、かかりつけ医の受診についても家族の要望があれば職員が同行するなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族同伴での医療機関受診となっている。本人、家族の希望を優先してかかりつけ医との連携はスムーズに行えている。		かかりつけ医が大病院である場合、症状ごとに専門が変わるケースがあり、結果が出るまでの時間がかかりすぎるのが問題で、内科全般を看てくれる個人医院の検討も期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本グループホームの在所中に2名の方が終末期を迎えられたので、終末期までの対応については職員一同がその経験を生かして、緊急時の対応は職員に徹底している。重要事項説明書にも、終末期まで対応すると明記し、かつ家族会等で本人や家族と意見の共有を図り、確認した内容を文書化して残している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなく利用者に声かけを行い、排泄や入浴を勧めている。また職員間の会話での利用者名はイニシャルで呼び、プライバシーの確保につとめ、また記録物は専用の棚に保管し秘密保持に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の睡眠時間や、起床時間はまちまちであるが、それらを尊重しつつ、睡眠時間の不足などを態度で気付き対応するようにしている。体調に配慮しつつも本人のペースを大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみであるため、好みや外からのいただきものによって急に変わることもあるが、希望を生かすように努めている。専門の調理師がいて献立を工夫している。一部の利用者は一緒に食事を作り、職員も食事を共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として入浴日は決めてあるが、なかなか入浴しない人もいるので、なるべく2～3日毎には入浴するように勧めている。ほとんどの利用者が介助を必要とするが、希望を叶えてあげるようにしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の野菜の漬物づくり、畑の作業、犬の散歩や世話、庭の手入れなど利用者の好みに合わせながら、また日常生活を、体調に配慮しながら職員は手助けしている。		重症化している利用者が多いことから、個別的に動くことが多いので、今後とも一人一人の状況を把握しつつ支援していくことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれの希望に配慮しながら、季節に応じた外出や犬との散歩、買い物など体調に合わせてながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や縁側は日中は自由に出入りできるようにしている。午後8時には玄関は鍵を掛けているが、内側からは自由に外せるので、夜間に徘徊した人がたまたま通常的时间より長く外に出たりしたので、関係者が探し回ったこともある。		夜間の徘徊者は、決まった人であるので、監視しやすいが、ときには異常なことも生じやすいので、地域住民の協力を更に求めるとともに、出て行くときに目印になるものや、点滅するものを背後に付けるなどの工夫をして欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを整備し、避難路の確保の確認などを行っている。町内会の防災(地震時も含めた)訓練に全員が参加している。		二階からの避難は、階段利用時の危険を伴うので、転落の予防対策などの検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は調理師がいて、栄養、水分摂取量を把握している。そのほか、10時と3時のおやつでの水分摂取や夏場は夜間に水分を補給している。便秘薬使用者は余分に水分を勧め、また牛乳の摂取を勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の中央部にキッチンがあり、台所での調理の物音や匂いが体感でき、家庭の雰囲気がそのまま保たれている。また、ラジオからの音楽などで自然な感じを出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得てできるだけ使い慣れた家具や寝台を使い、家族の来所や宿泊のとき、居心地よく過ごせるようにしている。また、仏壇を置いている部屋もあり、洗い場に昔使っていた洗濯板を置いたりしている。		